

2017

留学

TIME

Waseda University
Study Abroad
Student Advisers

- ・この冊子はあくまで学生個人の経験談を基に作成しております。
- ・引用されている情報は細心の注意を払って掲載しておりますが、みなさまご自身の責任でご利用いただくようお願い申し上げます。
- ・留学情報の詳細については、早稲田大学留学センター発行『留学の手引き』および留学センターホームページにて必ずご確認ください。

CONTENTS

留学先の選び方

p.2

留学中のスケジュール

p.3

ノンストップ！ 留学から始まる新たなストーリー &各国の法・マナー

p.7

トモダチ in the world

p.9

世界の住居から

p.11

#「勉強だけが留学じゃない。」

p.13

留学ハプニング！

p.15

留学Before After

p.17

留学とお金

p.18

留学先での長期休暇・・・ みんなはどう過ごしているの？

p.19

短期留学

p.23

世界のお祭り体験記

p.25

世界の美食&珍味めぐり

p.27

これ知って、持っていく人？ 持っていかない人？

p.29

アドバイザー紹介・メッセージ

p.30

早稲田大学留学センターが
提供している留学プログラム

中長期留学プログラム Double Degree Programs (DD)

早稲田大学在学中にDDのカリキュラムを提供する大学へ留学し、所定の要件を満たせば、卒業する際に早稲田大学の学位と留学大学所定の学位両方取得できるプログラム。留学期間は1年、1.5年、2年の3パターンがある。

Exchange Programs (EX)

大学間あるいは箇所間の交換協定に基づき留学するプログラムで、EX-R*とEX-L*の2種類がある。学費は原則として早稲田大学に支払い、留学先大学の学費は免除される。留学期間は原則1年だが、期間が半年のみのEX(1S)もある。

Customized Study Programs (CS)

留学先大学が早大生のために定めるカリキュラムに参加するプログラムで、CS-R*とCS-L*の2種類がある。早稲田大学の学費の支払いは原則として免除され、留学先大学に所定のプログラムフィーを支払う。EXと同じく留学期間は原則1年だが、期間が半年のみのCS(1S)もある。

短期留学プログラム

主に春・夏休み中に短期間(2~7週間)で実施される語学研修中心のプログラム。

R*:Regular Academicの略。最初から比較的高い語学力が要求され、現地学生とともに通常科目を履修できる。

L*:Language Focusedの略。外国語学習を中心としながら、語学レベルに応じてテーマに基づいた科目を履修できる。

留学先の選び方

400校を超える海外協定校を持ち、国内最大級の海外ネットワークを誇る早稲田大学。留学プログラムも様々な種類が用意されていて選択肢が多いけれど、だからこそ、留学先を選ぶのは一苦労かもしれません。そこで、留学した先輩はどんな点を基準に留学先を選んだのか、聞いてみました！

Q. 留学先を選ぶ際に最も重視していた点は何でしたか？上位5つまで選んでください。

回答者数48名(複数回答可)

1位 国や地域 (42票)

- ・英語を上達させたかったため、英語圏を選んだ。
- ・学んでいた第二外国語を伸ばせる国を選んだ。
- ・ヨーロッパの中心にあるドイツからいろいろな国に行ってみたかった。
- ・アメリカの大学の教育レベルの高さを身をもって知りたかった。



やはり国や地域を重視する人が大多数！みんな自分の興味・関心や目的に応じて国を選んでいるんだね。

2位 プログラムの種類 (27票)

- ・EXプログラムで現地の学生と一緒に勉強して、より現地の人々の視点を理解したかった。
- ・プログラムの種類によってお金がかなり変わってくるから。

留学の目的や費用を考慮して、自分にあったプログラムを見つけていったんだね。プログラムの詳細については本冊子の1ページを確認してね！



3位 学べる科目 (22票)

- ・国際関係学を学びたいと思ったため、世界の政治の中心にある都市や、その学問で有名な大学を選んだ。
- ・ジェンダー学や人種学について深く学びたかったので、多様な人々が集まるアメリカ、中でもリベラルとされる地域の大学を選んだ。



事前にどんな科目を勉強したいのかがはっきりしているなら、その分野の教授におすすめの留学先を再確認したり、自分で調べたりすると選びやすくなるね。

4位 留学期間(短期/中期/長期) (19票)

- ・自分が成長するチャンスをより長期的に得られるように長期留学を選んだ。

出願時の自分の成績 (19票)

- ・純粋にTOEFLの点数が低すぎてあまり選択肢がなかった。

納得のいく留学にするためにも、TOEFLやIELTSなどの語学スコアと大学の成績は大切！事前にしっかり準備しておこう！



5位 渡航先の治安 (15票)

留学先大学の規模 (15票)

- ・「各国から見た日本や他国の印象を知りたい」という目的があったため、授業内外でも在学生と会話する機会が多そうな小規模な大学を選んだ。

6位 かかる費用や渡航先の物価 (14票)

7位 日本人の数 (6票)

- ・留学先に日本人が多ければ、語学力を伸ばせないと思ったから。

留学先に日本人がいると、いざという時に助け合えたり、同じ苦労を分かち合えたりできる反面、学業や語学学習に集中できないのではと心配する人もいますね。



その他、留学先の寮の環境、大学の知名度、専攻分野別大学の世界ランキング、部活動などの意見もありました。

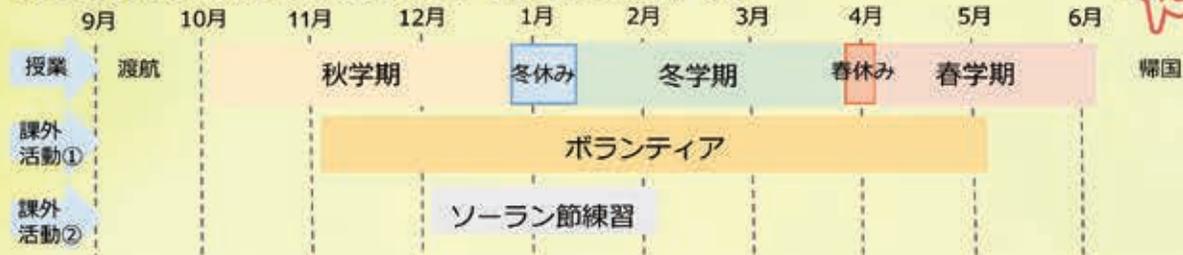
いかがでしたか？先輩の意見を参考にしながら、自分が何のために留学をしたいのかを見つめなおしてみると、留学先が選びやすくなるかもしれませんね！

留学中のスケジュール

実際に自分が留学したら、毎日どんな生活を送るのか、不安ですね。勉強も頑張りたいし、課外活動もしてみたいし、友達とも仲良くなりたいし…留学経験者のみなさんはどんな留学生活を送っていたのか、彼らのスケジュールを覗いてみましょう！

日本にいる時よりも勉強していました！

R.O.さん (政治経済学部) アメリカ / ワシントン大学 / GLFP



〈1日のスケジュール〉

	平日	土	日
8:00	起床、朝食		起床
9:00			友達の家で朝食
10:00	授業	起床、朝食	
11:00		洗濯、片付け	
12:00	昼食		
13:00		昼食	
14:00			シアトル観光
15:00		勉強	
16:00			
17:00	図書館で勉強		
18:00		夕食	
19:00		ボランティア	
20:00			勉強
21:00			
22:00	夕食	夕食	
23:00	シャワー	シャワー	シャワー
24:00	勉強	勉強	勉強
1:00		就寝	就寝
2:00-3:00	就寝		

〈留学中の勉強は大変でしたか？〉

私が履修していた政治学や国際関係学の授業は、課題やリーディングの量が多いことで有名でした。特に最初の学期は、とにかく**授業についていき、課題をこなすのに精一杯**でした。自覚はなかったけれど、友達に「死んだ顔してるよ」とか、「生きてる？」と心配されたりしたので、相当必死だったんだと思います(笑) 例えば、ある国際関係学の授業では、レポートを**5つ**、試験を**2つ**こなさなければなりません。また、課題で出るリーディングの量は、全ての授業を含めて**1週間に300ページ**ほどもありました。冬学期には、GLFP*の学生は必修のHonorsという授業で現地の優秀な学生と一緒にディスカッションをしたのですが、**クラスメイトの言っていることが理解できずに苦しみました**。教授に泣きついて相談しに行ったりもしたのですが(笑) 今振り返れば、リスニング力や自分の意見を言えるよう瞬時に準備する力が鍛えられたと思います。

*GLFP…真のグローバル・リーダー育成を目指し、アメリカの名門大学との協働で2012年度からスタートした留学プログラム。1年間の海外留学に加え、留学前後にも特別な教育カリキュラムが組まれ、学部4年間を通じてのプログラムであることが大きな特徴。

〈課外活動はどんなことをしていましたか？〉

毎週土曜日にホームレスシェルターという、ホームレスの方が夜泊まる場所や食事を提供する施設のキッチンで**ボランティア**として働いていました。また、2月に学内で開催される異文化交流イベントに向けて、2ヶ月間、**ソーラン節の練習**にも参加していました。イベント直前には週3回練習をするなど、かなり力を入れて練習していたおかげで本番も成功し、上々の評判をいただくことができました。



左：大学近くのアイスクリーム屋へ友達と。
右：クリスマスに地元に住んでいる方のお宅を訪問。



勉強と課外活動両方頑張りました！

J.K.さん (国際教養学部) / 韓国 / 延世大学 / EX-R



ミュージカルサークルの公演



〈1日のスケジュール〉

	平日	土	日
9:00	起床、朝食	起床	
10:00	授業	ボランティア	起床
11:00			
12:00	友達とカフェテリアで昼食	ボランティアのメンバーと昼食	
13:00			
14:00	授業、空きコマはカフェが部室	カフェで勉強	友人と出かける、国内旅行など
15:00			
16:00			
17:00			
18:00	夕食	夕食	
19:00	サークル/友人とカフェ、部室で勉強	友人と出かける	友人と外食
20:00			
21:00			勉強
22:00	帰宅		
23:00			
24:00	シャワー、就寝	帰宅	シャワー、就寝

〈留学中の勉強は大変でしたか？〉

1学期目は慰安婦問題や北朝鮮問題など難しい内容の授業を英語で受講していたのですが、国際教養学部所属の私は英語の授業には慣れていたので、ついていくのはそこまで大変ではありませんでした。しかし、自分がすでにできる英語に甘えていては、本来習得したいと思っていた韓国語が習得できずに終わってしまおうと焦り、2学期目の授業はほとんど**すべて韓国語で行われる正規の授業を選択**しました。韓国語の授業についていくのは大変でしたが、自分で実感できるほど**韓国語のレベルが飛躍的に伸びた**ので、良い選択だったと思っています。また、課題が多い時や試験が近いときなどは、24時間営業しているカフェ(ソウルのカフェは24時間営業しているところが多い)やサークルの部室で友達と一緒に情報共有したり問題を出題し合ったりしながら勉強していました。大変でしたが、友達と一緒に頑張ったので刺激をもらいながら乗り切りました。



Seoul City Hallでのインターンシップ

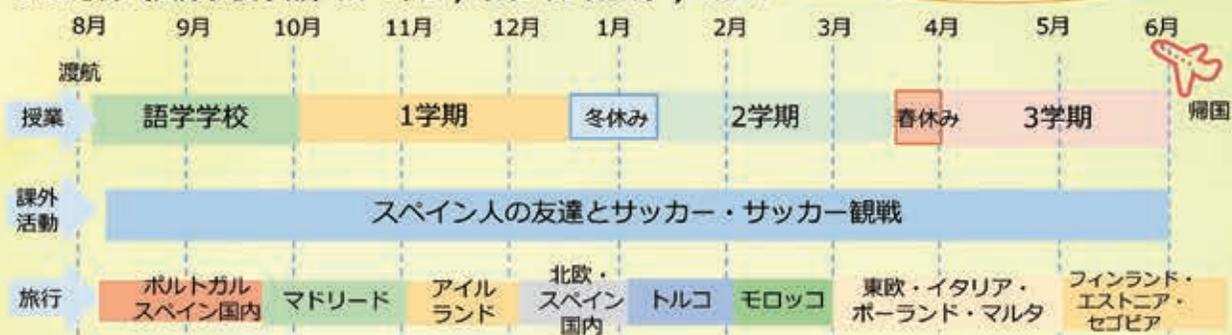
〈課外活動はどんなことをしていましたか？〉

私は1年間でかなり活発に課外活動をしていました。キリスト教国際交流会という、様々な国の人が集まって**韓国語で会話を楽しむ団体**には毎週通っていましたが、**小学生に英語を教えるボランティア**や、延世英語社会という**英語でミュージカルをするサークル**でも活動していました。延世英語社会では公演前になると練習が忙しく、勉強との両立に苦労しました。しかし、その分サークルでできたたくさんの韓国人の友達と長く一緒にいられ、仲が深まり語学も伸びました。このサークルでは、飲み会のやり方や放課後の過ごし方など**韓国の大学生文化にとっぷりつかることができた**のも良い思い出です。2学期が終わってから帰国まで2ヶ月間は、ソウルの**市庁舎でインターンシップ**をしていました。ソウル交通の総合指令室に勤め、私は韓国語と日本語、韓国語と英語の翻訳業務を中心に担当していました。これまで培ってきた英語と韓国語と、母国語の日本語の能力を最大限に活かした2ヶ月だったと思います。このインターンシップを通して思い出に残っていることは、韓国政治の中心地で韓国の社会がどう動いているのかを観察できたこと、そして何より韓国人の人情を教えてくれた職場の温かい人々に出会えたことです。活発に課外活動をしたことで**様々な角度から韓国の文化に触れることができた**と思っています。

韓国語で会話を楽しむ様子



S.O.さん (国際教養学部) スペイン / サラマンカ大学 / CS-L



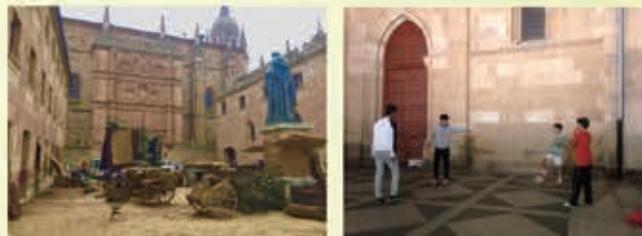
勉強と課外活動
両方頑張りました!

〈1日のスケジュール〉

	平日	土	日
8:00	起床、シャワー		起床、シャワー
9:00		起床、シャワー	マドリッド行きの準備
10:00			サラマンカ発⇒マドリッド着
11:00	授業	ランチ	
12:00			
13:00		買い物	昼食をとりつつスタジアムへ
14:00		グラウンドや街中で居合わせた人とサッカー	
15:00	昼食		試合観戦
16:00	昼寝		
17:00	サッカーがジム	昼寝	
18:00			
19:00	買い物		駅へ移動、マドリッド発⇒サラマンカ着
20:00		バルへ向かう	試合観戦
21:00	自炊、バル、映画鑑賞、クラブバー	サッカー新聞を読む	夕食
22:00			余韻に浸る
23:00			
24:00	単語を覚える~就寝	就寝	就寝

〈留学中どんな勉強をしていましたか?〉

僕の場合は**語学の勉強**が中心でした。スペイン語は大学1年生の時に始め、文法は一通り学習済みでしたが、渡航当時の会話能力はほぼ皆無でした。しかし留学終了時にはスペイン人の友達と話まらず喋れるようになったので、当初に比べたら飛躍的にレベルは上がったと実感しています。ここまでスペイン語が上達したのは、**現地の友達との会話**のおかげです。その友達は英語も話せたので、分からないことはすぐ質問することが出来ました。また、自分の**大好きなサッカー**も語学力向上の一助になりました。バルと一緒にサッカー観戦をしているスペイン人と会話したり、スペイン人とサッカーをしたり、サッカー新聞を購読したりすることで語学力を楽しく鍛えることができました。興味から入る事は重要であると感じました。授業は学期ごとに集中して一つの分野を学んでおり、スペイン経済と美術、スペイン語圏の映画についての授業を取っていました。



写真左：2018年には創立800年を迎えるサラマンカ大学
写真右：街中で居合わせた子供とサッカー

〈学業以外にはどんな活動をしていましたか?〉

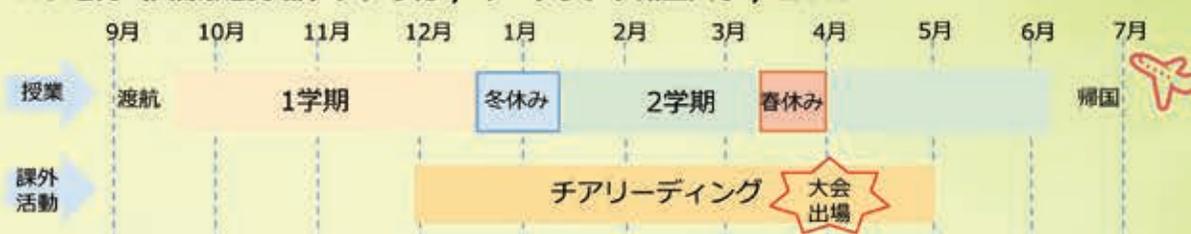
僕はとにかく**サッカー関連の活動**をしていました。グラウンドや街中にボール1つ持って行って、その場に居合わせたスペイン人とサッカーしたり、バルでパブリックビューイングをしたり、週末には定期的に各地のスタジアムに行って試合観戦をしたりしていました。スペイン全国民がサッカーに興味があるのはかなり日本とは違って驚きでした。老若男女問わずサッカーの話題で楽しめました。サッカーのユニフォームを着て街を歩いているだけで握手されたり話しかけられたりするなんてこともありました。またできるだけ多くの国を訪れたいと思い、たくさん旅行にも行きました。思い出に残っているのは、春休みの16日間を使って8か国を**バックパック旅行**したことです。世界遺産検定を取るくらい世界遺産に興味があったので、今まで写真でしか見る事が無かった所に訪れる事ができてとても良かったです。パチカン市国のサン・ピエトロ大聖堂から、イスタンブールのブルーモスク、ウィーンの高級感漂う洗練されたエリアから、モロッコの雑多で薄汚く、ラクダの生首が吊るされているちょっと怖い旧市街まで、本当に幅広く様々なものを見て、体験することが出来ました。飛行機で2時間飛んだだけで、気候、街の雰囲気、歩いている人々の人種もガラッと変わるので、その変化がとても面白く、毎回の旅行がとても新鮮でした。



チャンピオンズリーグ準決勝のレアルマドリッドvsマンチェスターシティ観戦時

課外活動に力を入れていました!

Y.O.さん (国際教養学部) アメリカ / ポートランド州立大学 / EX-R



〈1日のスケジュール〉

	平日	土	日
7:00			起床、朝食
8:00	起床、朝食		
9:00		起床、朝食	チアリーディングの練習
10:00	授業	勉強	
11:00		勉強	
12:00	昼食	昼食	昼食
13:00			
14:00	勉強やジムなど	勉強	友人と出かける
15:00			
16:00		友人と買い出し	
17:00			
18:00	チアリーディングの練習	夕食	夕食
19:00			
20:00		勉強や友達とのスカイプなど	勉強や友達とのスカイプなど、シャワー
21:00	シャワー、夕食	シャワー	
22:00			
23:00			
24:00	就寝	就寝	就寝



〈チアリーディングチームにはどのような経緯で入ったのですか?〉

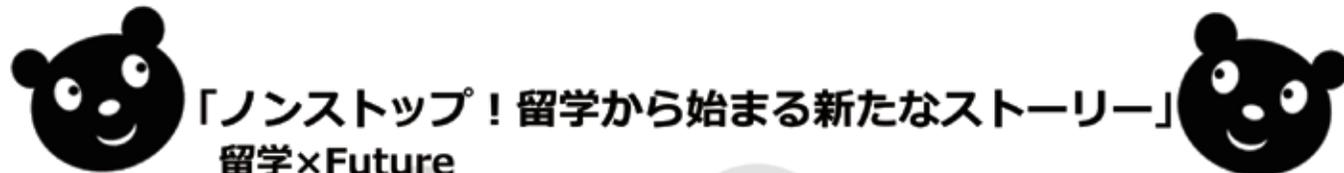
もともと小学4年生の時からチアリーディングをやっていて、早稲田でも応援部に所属していました。なので、留学当初はチアリーディングのない生活が物足りなく感じ、現地の大学のチアリーディングチームに入ろうと思いました。しかし、チームに入るためのオーディションが5月に終わっていたので、コーチに練習を見学させてもらえるようメールをしたり、ずっとチアリーディングをやってきたことを話したりしたら、快く迎え入れてくれました。12月から参加したので、**チームのメンバーからは遅れをとっていたし、知らないことだらけ**でしたが、皆オープンな心で接してくれたし、**留学生だからといって特別扱いはされることは全くありませんでした。**



〈大会にも出たそうですが、練習は大変でしたか?〉

これまで所属していたチアリーディングのチームが世界大会に出場したこともあるくらいだったので、技術面はそれほど大変ではありませんでした。授業は興味のある心理学を中心としていたのですが、教自体は少なかったので、練習との両立もできました。ただ、自分は大会に出るつもりはなかったのに、大会1ヶ月前になっていきなり「大会に出るよね」とコーチに言われたので(笑)自分にはできるだろうかという不安はありました。それでも、「**メンバーになったからにはやるしかない**」と**気合いを入れて**臨みました。あとは、チームメンバーがとても自由で、練習に時間通り来なかったり、技がうまくいかないことがあると感情的になって時にはけんかが起きることもありました。日本での練習と違う点だったので驚きましたが、**それが彼らのやり方なんだと気づきました。**メンバーとは練習以外でも一緒に遊びに行ったりしましたし、今でも連絡を取り合っています。





「ノンストップ! 留学から始まる新たなストーリー」

留学×Future

● 課外活動に取り組む中で、新たな気付きや自分の中での変化などがあったエピソード集

- 大学内の団体ではないが、どうしても合唱の活動がしたかったため、なんとか多くの人のツテを使って合唱グループを探して参加した。その過程で、自分が本当にやりたいことをするべく、人を頼ることやコミュニケーションを取ることができた。
- パートナーファミリーが私のために何かしてくれた時に感謝を表現したかったが、語学力不足ゆえに、自分がどう感じてどんなに感謝しているかを十分に表現できないこともあり、フラストレーションを感じたりした。しかし、それも語学力向上へのモチベーションの1つになった。
- 自分を見つめ直す時間が増えていった。少しネガティブ思考になるくらいが刺激になって良いと思った。

● 多くの留学経験者が留学を通じて内面的な成長を実感! 将来のビジョンを決めるきっかけにも!

留学前後で自身の内面的な成長を実感しましたか?



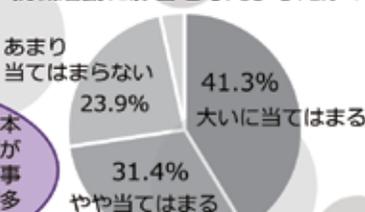
多様な価値観を受け入れる大切さ

ホームステイ先で、ホストマザーの里子として暮らす2人の自閉症の女性と暮らした経験から、それぞれの個性を尊重し、理解する姿勢を身に付けることができた。それがきっかけで、帰国後に日本人と関わる際は、同じ言語を話すだけで考え方は人それぞれ異なるということをよく意識するようになった。

「行動力」

自分で動かなければ何も得ることはできないし、部屋でこもっていることになるので、やりたいことを主張すること、さらにそれに向けて行動することを常に意識しなければならなかった。

留学経験が将来の進路決定や就職活動に影響を与えましたか?



コミュニケーションに対する意識

多少語学力に不安があっても、コミュニケーションを取ろうとする意識を持ち、笑顔で声をかけてみることでなんとかなる。プレゼンやディスカッションは緊張するが、予習をしたり、自分の経験に基づいて「留学生である」強みを活かしたりすることで語学力をカバーできるし、むしろそれを上回る学びを周りに提供することができる。

留学経験者45名に聞いたアンケート結果がこちら!

「海外で働きたい」、「日本のプレゼンスを高める仕事がしたい」、「英語を使う仕事がしたい」、などの意見が多く挙げられました!

● 早稲田大学の留学プログラムを利用した、2名の留学経験者にインタビューしてみました!

▼はじめに、M.N.さん(以下Nさん)の留学後の進路及び現在の状況について教えてください。

Nさん: 留学センターのCS-Lプログラムから帰国後、今度は私費留学しました。現在は「teacher for japan」というNPO団体でインタビュをしていて、大学卒業後は千葉の小学校の先生として働く予定です。なぜ帰国後にもう一度留学しようと思ったのですか?

Nさん: 率直に、日本の大学よりもアメリカの大学の授業の方が楽しいと感じたからです。留学先では教育学部の授業を中心に受けており、学生同士でのディスカッションやプレゼンテーションをする機会が多く、教授も学生に対して丁寧なフィードバックをしてくださいました。学ぶことの楽しさをより実感することができました。

▼なるほど。Nさんは教育について関心をお持ちのようですね!

Nさん: 先生になることがゴールではなく、「教育する人を教育すること」をしたいと思っています。自分がいい先生になって、わくわくしている子供たちを増やすだけでなく、わくわくするようない授業ができる先生を増やしたいです。3年後までには海外の大学院で学びたいと思っています。

▼その後、また現場には戻らないのですか?

Nさん: 今はまだ分かりませんが、理論を学ぶことも現場も大事だと思っています。日本の大学で経験を現場で先生として教える中心に学ぶというケースが多いです。一方、アメリカの大学には現場経験のある教授が多く、学生は学んだことをoutputする機会が多い印象があります。僕は、理論

◀ 将来の夢は、教育する人を教育すること ▶

留学×私費留学

M.N.さん (国際教養学部)

- アメリカ
- アーラムカレッジ
- CS-L

と実践をうまく掛け合わせて、良い授業の再現可能性を高めていけたらいいなと思っています。アメリカと日本を比較されていますが、発想がとて奥深いですね。他にも、留学を通じて身に付いた力などはありますか?

Nさん: 一番大きいのは英語運用能力だと思います。今のインタビュ先では、海外の人とスカイプで会議をする時によく英語が使われます。あとは、バイタリティが高まったり、好奇心が旺盛になったり、誰とも渡り歩ける強さや行動力も高まったと思います。留学をきっかけに、環境が変わるところで自分何ができるのかを試せて、力を伸ばせる絶好の機会が留学だと思っています。絶対的な人間関係や学歴も関係なくなっているところから、タイムリになるけれど、一日一日がとても新鮮で、新たな人との出会いにもワクワクしています。

▼最後に、留学を控えている方に向けてメッセージをお願いします。

Nさん: 留学中は、自ら意思決定する機会が必然的に増え、新しい体験やそこからの気づきの積み重ねが成長につながると思います。不安になったり成長のチャンスだと思ったりは、頑張ってください!

▼M.S.さん(以下Sさん)は就職活動を終えて、来年の春から社会人としてどのような仕事をされるのですか?

Sさん: 某企業のSE(システム・エンジニア)として内定いただきました。

▼SEって、社内のシステム開発や設計をされるお仕事ですか?是非、SEを選んだきっかけを教えてください!

Sさん: 留学を経験して、英語を使う仕事、海外で働ける仕事かと思っていました。はじめは海外に営業として行ける仕事をみましたが、自分が本当にやりたいことは何だろうと考えて、モノを売るのはなく、モノを作る側で働きたいと思いました。それと努力次第で能力を高められるSEの仕事に魅力を感じ、志望しました。

▼将来のキャリアを考える上で、留学経験が大きく影響しているそうですね。

Sさん: 留学前後で考え方が大きく変わりました。留学前は、周りに流されるタイプで、将来は大企業に行かなければいけないとか、バリバリ働かなければいけないかと思っていましたが、逆にそれがストレスに感じようになりました。

▼具体的に、どのような経験がSさんの考え方に影響を与えたのでしょうか?

Sさん: そうですね。ホストファミリーの影響はとて大きかったと思います。お父さんの会社を経営していて、3人の兄弟と3人の養子の兄弟がいました。お母さんは家で勉強を教える仕事をしています。週末には家族全員でハイキングやキャンプをしに出掛けました。

▼自然を謳歌していませんか!もともとはアウトドア派だったのですか?

Sさん: いえ、全く(笑)平日は夜まで帰らなかったりで家族との時間も少なく、週末も予定をぎっしり詰めるタイプでした。

▼だいぶ生活リズムが変わりましたね!ホムスさん、いいえ、特に(笑)むしろ不要な考え方、鑑はすべてオレゴンに捨ててきました。」

留学×就職活動

M.S.さん (文化構想学部)

- アメリカ
- オレゴン大学
- CS-L

▼方、鑑はすべてオレゴンに捨ててきたという感じですか。日本で起業もしていて、あれもこれもやらなきゃ、と思ってきましたが、幸せに対する考え方が変わったと思います。▼でも、就職活動の面接で留学経験を聞かれたと思うのですが、身に付いた力はアピールしなかったのですか?

Sさん: しなかったです(笑)働き方に対する考え方が変わったこと、「しなればいけない」という固定観念がなくなったことなどを話していました。実際、面接で落ちたことなどは会社は数多くありますが、偽った気持ちで伝えるのはせつなくて留学した意味がなくなってしまうと思って、素敵です。そんなSさん、海外を転々として2つあって、SEとして海外を転々すること、警察官になること。実は幼い頃から警察官になりたくて自分なりに考えてきたんです。もう一度夢を叶えたいなと思っていて、その方がより一度夢を変えない、フラットな人でありたいです。仕事をすることで多様な価値観を持つた人と働きたいと思っていて、その方がよりよいものが生まれると思うので、たくさん自分の視点から物事を考えられるように、いつでも自分らしく、フラットでいたいんです。

▼ありがたうございます。では最後に、留学を控えた後輩に向けて一言お願いします。

Sさん: 変に頑張りなくていいと思います。せっかくの留学だから無駄にしたいくないって思うと切羽詰まるので、留学経験は人生のどこかで必ず役に立つと思って、気を張らずに自分らしい留学にしてください!

留学経験者に学ぶ 知っておきたい! 各国の法・マナー

ドイツ

電車に乗る時に改札がない。しかし切符を買わずに乗車したのが見つかったら罰金約50ユーロ(日本円で6500円前後)。



イギリス

ロンドンでは駐車場をあまり見かけない。家に駐車場がない場合も多く、Resident Permitというその地域に住んでいる人のための路上駐車制度が存在し、公道の両端に車がズラリと並んでいる光景は珍しくない。

韓国

ご飯を食べる時、茶碗やお皿を持ち上げるのはマナー違反。テーブルに置いた食器からスプーンや箸を使って食べ物を口に運ぶのが食事のマナー。

タイ

熱心な仏教徒が多く、お坊さんの地位が高い。お坊さんには道を譲らなくてはいいけなかったり、バスで座る位置が決まっていたりする。女性がお坊さんに触れるのは厳禁。

アメリカ (ペンシルベニア)

アーミッシュ*という電氣を使用しない民族が生活している。彼らは宗教上の理由から写真に撮られるのを嫌うこともあるため、気安く撮影してはならない。(*ペンシルベニア州に限らず、アメリカ東部・中西部、カナダにもコミュニティが存在します。)

中国

頻りに車のクラクションを鳴らす。クラクションは、自分が「ここにいるぞ!」という意志表示。「後ろを通るので注意して下さい」と伝えたい時もクラクションを鳴らす。左手はいつでもクラクションを鳴らせるように、常にボタンの上に。

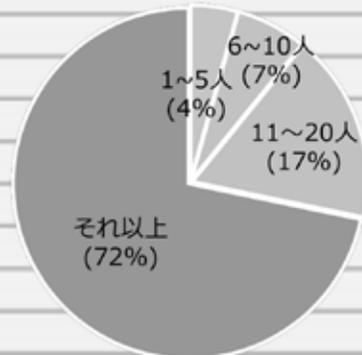
トモダチ in the World

留学前にどうやって事前リサーチも準備もできないのは、現地での人間関係。楽しみだけど、不安なことも多いですね。ということで、留学先での人間関係について留学した先輩たちにアンケート調査をしてみました！これを読めば少しは心の準備ができるかも？！
(回答者46名 Q.2,3は複数回答可)

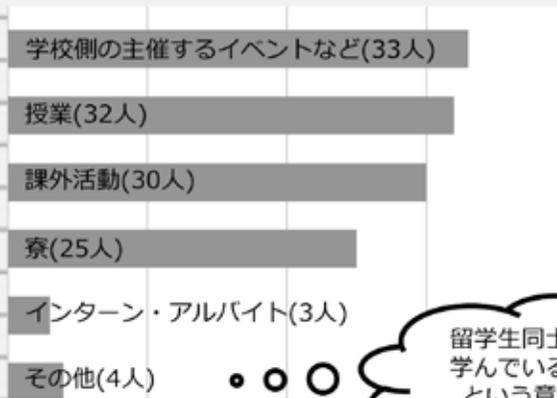
Q1. 留学先で新しい友達は何人できた？



なんと！みんなとてもたくさん友だちができたんだね！留学中は普段日本で生活している時には出会えないような人たちと知り合えるチャンス。楽しみだなあ。



Q2. どうやって新しい友だちを作った？



学校側が主催するイベントで仲良くなる人が多いんだね！どこで友達を作れるんだろうって思ってたけど、少し安心したなあ。部活・サークル・ボランティアのような課外活動で友達を作る人も多いみたい！留学中は積極的に行動しようっと。

留学生同士、日本語を学んでいる現地の学生という意見が多数！



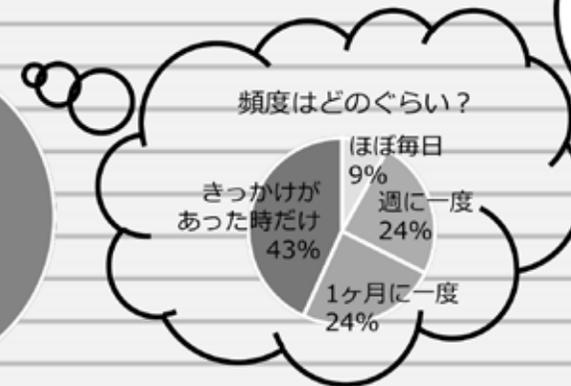
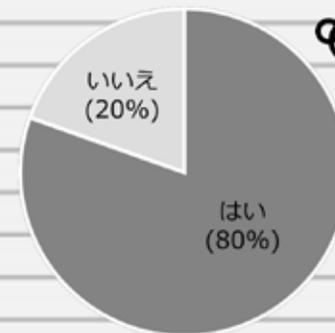
Q3. 友だちとはどうやって仲を深めた？



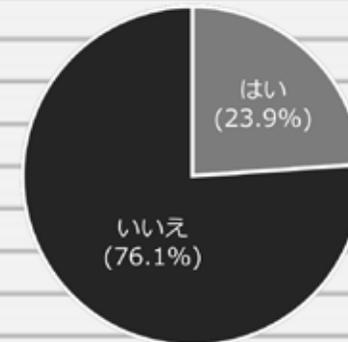
ここはやっぱり日本にいる時と変わらないんだね！一緒に勉強するっていう回答が多かったのは、日本にいる時よりも更に勉強が大変な留学ならではのかも。



Q4. 留学中、日本にいる友だち・留学している他の日本人の友だちと電話・ビデオ通話はした？



多くの人が日本の友だちと連絡をとってるんだね！長い留学生活、息抜きも大切。ホームシックな時や疲れた時は無理しちゃダメだよな！



Q5. 留学中に恋人はできた？

YES: 23.9%

NO: 76.1%

なんとなんと！約4人に1人が留学中に恋人と出会っていました！もちろんそれが目的な訳ではないけれど、ちょっと期待しちゃおう？！

留学中のトモダチエピソード

楽しかった編

★留学仲間で順番にその国のご飯を作ってみんなに振る舞うパーティーをした。

★現地にいたサウジアラビア人が日本好きで、独学で日本語を学んでいた。自分も知らない日本の音楽やアニメを知っていた。彼の家に招待してもらったり(ちなみにいつも日本のテレビを見ていた)、一緒に食事に行ったり、一番仲良くした友人である。

★誕生日パーティーを週末にかけて盛大にやってもらった。

★日本語を勉強している現地学生と毎週日本のアニメを観て英語でアニメについて語っていた。自分が好きな作品を英語で説明することによって日本文化を紹介するための英語表現を学べ、現地の人たちに日本文化を紹介するプレゼンをしたときに役立った。

いかがでしたか？留学中は様々な文化背景を持った相手と接するので、楽しいことばかりではないかもしれませんが、でもそれ以上に楽しいこともたくさんあります！きっとそこで培った人間関係や経験は一生の財産になりますよ。

辛かった編

★同じシェアハウスに住む日本人とあまり気が合わなかった。

★ルームメイトと関係が悪化し、最終的に部屋を変える事態になってしまった。

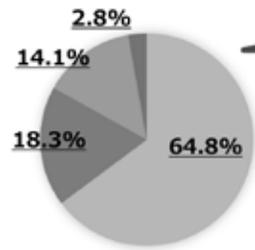
★寮の同居人から私物を盗まれ、しばらく口論になった。

一緒に住むとなるとトラブルも発生しやすいみたいだね。他にもグループ内で仲の悪い人たちの板挟みになったりと、人間関係のトラブルは万国共通みたい。



~世界の住居から~

留学中を通して生活する住居。先輩たちの体験談を大公開します！！



あなたの住居形態は？ 回答者50名

- ◆寮：64.8%
- ◆アパート (ルームシェア/フラットシェア/シェアハウス含)：18.3%
- ◆ホームステイ：14.1%
- ◆その他：2.8%

- ◆寮派
- ・留学生が多い、イベントが多い
 - ・大学内で通学が楽
 - ◆アパート派
 - ・自炊ができる
 - ・自由に生活できる
 - ◆ホームステイ派
 - ・現地の暮らしを体験したい

では、留学をしていた先輩の体験談を聞いてみましょう！



- ① どのような住まいだったの？
- ② あなたの住まいでの生活で最も印象的だった思い出は？
- ③ あなたの住居形態のメリットとデメリットは？



1位 寮 64.8%

Y.M.さん (商学部)
アメリカ/アメリカン大学/EX-R



- ① 私は大学寮の2人部屋で生活をしていました。私の寮では、ミールプラン (学食利用券) の購入が必須だったので、友人と外食をしない時などは寮でミールプランを利用していました。寮生活の中では、2人部屋だったこともあってルームメイトとの仲が良く、楽しい寮生活を送ることができました。
- ② 2人部屋のルームメイトに初対面で同性愛者と告白されたことです！ (笑) あまりのオープンさに驚くとともに、アメリカという国を肌で体感しました。
- ③ 大学寮ということもあり、キャンパスまで徒歩3分であったのは非常に良かったですね。また、寮生活はルームメイトがいると思いますが、ルームメイトと仲良くなれるというのも寮生活の醍醐味かもしれません。一方で、デメリットは寮費が高かったことです。大学寮を居住先として選択する際は、ミールプランへの加入が必須か否かといった条件を確認して、アパートの費用などと比較してみるといいかもしれませんね。

PICK UP

共有物が多い寮生活。実際に寮内で共有していたものは？回答者数50名 (複数回答可)

- 1位 洗濯機 90%
- 2位 キッチン&乾燥機 88%
- 3位 水回り (シャワー・トイレ等) 74%

寮では多くの先輩が寮生と設備を共有し合って生活をしていましたよ！

M.K.さん (国際教養学部)
カナダ/プリティッシュコロンビア大学/EX-R



- ① 大学が買い取って寮にしたペンションに5人で住んでいました。講義棟から10分程度の場所にあり、キッチンが共用。シャワーやトイレは同じ階の人と共用していました。在學生と留学生が半々くらい住んでいて、私はロシア人の子と仲が良かったです。ハロウィンや感謝祭の際は行事に合わせたイベントがあり、よく参加をしていました。
- ② 私の誕生日にサプライズでお祝いしてくれたことです！その日はお祝いしてもらえないなんて思っていて友人と外食をしていたのですが、寮に帰ると誕生日のデコレーションがされていて驚きました。バースデーカードまで寮の友達が用意してくれて嬉しかったことを覚えています。
- ③ 寮生活のメリットは、在學生とすぐに知り合えることです。留学当初は、キャンパスが広すぎてどこに何があるか全くわからなかったのですが、そんな時その友人たちが助けてくれたのは非常に助かりました。実際に、ホームステイをしていた友人は、留学初期に在學生の知り合いがいなかったことで苦労したと言っていました。一方で、友人を家に呼びづらかったというのはデメリットかもしれません。私の寮では、友人を寮に呼ぶ際は前日までに許可が必要だったので、突然友人を寮に招くことが難しかったです。アパートに暮らしていた学生に比べると、その点は不自由でしたね。



2位 アパート 18.3%

A.H.さん (国際教養学部)
韓国/高麗大学校/EX-R



- ① 大学から徒歩5分程度のワンルームという韓国式アパートに住んでいました。キッチン・洗濯機・リビング・バルコニーなどは共用しており、リビングでは住居者の学生との交流もありました。ここで仲良くなったスペイン人とオーストラリア人と旅行に行ったりもしましたね。食事ですが、白米・キムチ・卵・調味料・パン・シリアルがアパートでは無料でしたが、外食も安かったのでよく外食に行っていました。
- ② 壁が最初少し汚かったのですが、管理人の方に伝えるとすぐに壁紙を張り替えてくれたことです。その方がとても気さくで、大きな郵便物などもご厚意で運んでくれたのは印象的でした。
- ③ 様々な飲食店の近くにアパートがあったので、食事や買い物に困らなかったこと。また、友達とすぐに会えたことは、アパート生活をしていて良かったと感じています。しかし、共用の洗濯機が3つしかなく、ほとんど被ることはありませんが、他の住人が使用しているときは待つのが手間でした。キッチンも同じような感じでした。混んでない時間を見つけたりして上手くやっていましたが、その点は大変でした。



K.S.さん (商学部)
イタリア/ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学/EX-R

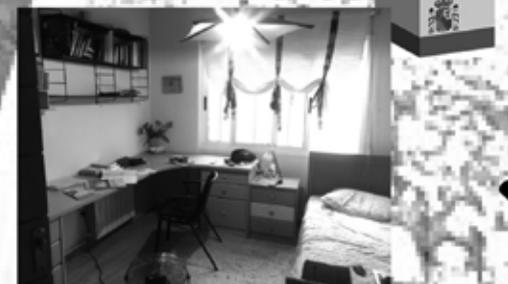
- ① 私はフランス人、ドイツ人、イタリア人と共に4人でアパートをシェアしていました。それぞれの自室はありますが、キッチン・バスルームは共用でした。食事のタイミングがバラバラだったこともあってフラットメイトとの交流はそれほどありませんでしたが、タイミングが合う時は話していましたね。
- ② フラットメイトとその友人たちを集めてパーティーをしたことです。各々が自分の国の料理を作り、非常にいい思い出になりました。私は寿司を作ったのですが、現地の材料のみで寿司をつくるのはなかなか苦労しました (笑)
- ③ アパート生活のメリットは、プライベートの確保がしやすい点です。また、寮とは違って部屋が広がったので生活をする上で快適でした。寮だと留学生ばかりになることが多いと思うのですが、アパートなので年齢と国籍が様々であったのは楽しかったですね。一方で、シャワーとトイレは共用だったのでタイミングが被ると面倒でした。あとはキッチン器具や食器の数が限られていたので、誰かが使用後に片づけを怠った時には、その度に代わりに片づけをするのが大変でした。

3位 ホームステイ 14.1%

S.O.さん (国際教養学部)
スペイン/サラマンカ大学/CS-L

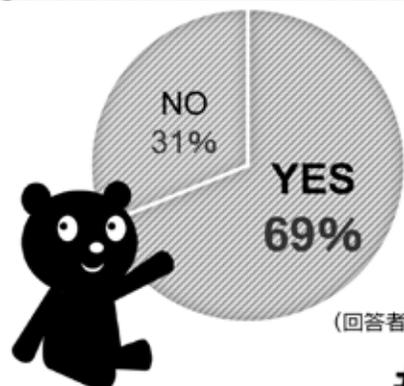


- ① 私はスペイン現地でホームステイをしていました。ホームステイ中は家族の一員のような感じで、家の中にある物は何でも自由に使うことが出来ました。食事は、朝食はマフィンを置いておいてくれるのでそれを食べて、昼食もいつも作ってくれました。夜は外食など自由にしていました。
- ② イランから移住してきた家族の家だったので、その家がバハイイ教という宗教の支部だったこともあって、ある日を境にその信者が家に大量に押し寄せて来て、非常に騒がしかったです。今ではいい思い出ですが (笑)
- ③ ホームステイの最大のメリットは語学力向上だと思います。ホストファミリーはスペイン語以外は通じないため、家でスペイン語を話すことが語学力の向上に繋がりました。また、他にも同じ家にホームステイしている学生がいて、その学生とも交流が持てたのは良かったです。デメリットは、寮やアパート生活に比べてある家族と生活を共にするので、多少は気を遣ってしまったり疲れてしまうことがあることですね。



#「勉強だけが留学じゃない。」

Q.留学中に課外活動を行っていましたか？ 【複数回答可】



- ・大学の部活・サークル 45票
(サッカー、野球、テニス、トライアスロン、ボクシング、アルティメットフリスビー、合唱、オーケストラ etc.)
- ・ボランティア 12票
(語学学校、教会、植林ボランティア etc.)
- ・インターンシップ 7票 (日系企業 etc.)
- ・アルバイト 5票 (日本料理屋 etc.)
- ・地域の活動 2票 (サッカー、合唱)
- ・スクール 2票 (音楽学校、バレエレッスン)
- ・その他 東日本大震災の募金活動 etc.

#先輩たちの課外活動

<共通質問項目>

- ①活動概要 ②活動を始めた動機 ③活動を知ったきっかけ (④やりがいを感じた時)
- ⑤最も印象的な出来事



H.F.さん (政治経済学部)
アメリカ / ユタ大学 / EX-R

#ボランティア

“Where the land ends and sea begins” 憧れのアラスカで命と向き合った3週間

- ①同性結婚をした女性2人によって営まれる小さな農家(アラスカ州ホームー)で動物たちの世話。主な仕事は朝晩1日2回の餌やり、小屋の掃除などの雑用。昼間は町に遊びに行ったり本を読んだり、思い思いに過ごすことができました。
- ②海外でボランティアをしたいという動機ももちろんありましたが、私の場合アラスカに行きたいという気持ちの方が大きく、それが主な動機です。小学生の頃ある本で見た雄大な自然に魅了されて以来アラスカに憧れを持ち続け、今回で3回目の訪問でした。ボランティアで滞在する経験は初めてだったため新鮮感がありました。アラスカは非常に広大で、訪れるたびに新しい景色を見せてくれます。

③インターネットでボランティアについて調べていたところ、workwayというホストとヘルパーをマッチングするサイトを見つけました。世界135カ国800以上のホストが登録しており、自分の行きたい国、やりたい仕事を探す際、過去のヘルパーのレビューも掲載されていたため、ホストへの評価も確認できて安心でした。私が行った農家には、他にもシカゴ、中国、ニュージーランドから来たボランティアがいて、一緒に仕事をしました。

④羊の屠殺。羊は銃で撃たれた後すぐに喉をかき切れられ、血を搾り出されます。私は皮を剥くところから手伝いましたが、喉をかき切られても自分が死んでいるのがまだ分かっていないように、ピクピク動いていました。終わった頃にはクタクタでしたが、多くの人は一生涯無縁であろう羊の皮剥ぎをアラスカで体験でき、誇りに思っています。

#インターン

K.M.さん (国際教養学部)
フランス / リール政治学院 / EX-R

フランス語を活かし、大手日系企業でインターン

- ①自動車メーカーのスズキ・フランスオフィスで書類作成、Moto GPというロードバイク世界選手権のスタッフ、パリディーラー訪問など様々な業務を経験しました。
- ②フランス留学の集大成として、フランス語を活かす経験をしたかったからです。
- ③早稲田大学留学センターからのインターンシップ生募集メールで知りました。選考なども留学センター経由でした。
- ④Moto GPスズキショップのスタッフをした際、欲しい商品が売り切れてしまったお客様がいました。その時無料配布していたオリジナルアメニティを差し上げたところ、日本らしい気遣いやおもてなしを喜んでいただけたことが印象に残っています。



#部活

A.O.さん (国際教養学部)
アメリカ / コーカレッジ / CS-L

- ①水泳部に所属し、水陸合わせて週9回の練習。
朝6:00~8:00
夜15:30~18:00

②早稲田でも水泳部に所属していて、留学後も早稲田大学水泳部の一員として結果を残すために留学中も練習する必要性がありました。また、留学中の目的が国際的な価値観に触れることだったので、チームとして活動する現地の水泳部に所属し、多種多様な学生たちと1つの目標に向かって取り組みたいと思いました。

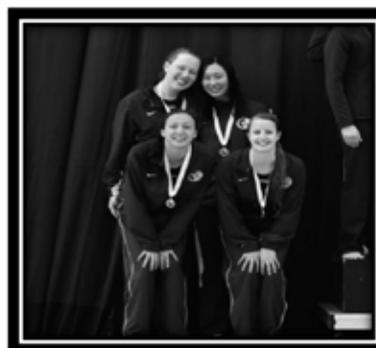
③先輩に聞いたり、直接学校と連絡を取ったりしました。学校を選ぶ際に色々な学校にメールを送り、自分が水泳をするのにベストな環境を探しました。中には留学生を受け入れていない水泳部や、プールは開放していても部活動が行われていない大学もありました。



大学の水泳部で数々のスクールレコードを更新！！

④現地の大会で結果を残し、チームに必要とされていると感じたときです。スクールレコードを個人で4つ、リレーで3つ塗り替えられたことが特に嬉しかったです。記録を塗り替えるたびに、「君がいるおかげで伝説のチームだよ」とチームメイトが声を掛けてくれて、このチームに所属できて本当によかったと心から思いました。チームメイトの言葉がモチベーションになって、また記録を塗り替えたいと頑張れました。

⑤地元のインターネットニュースの記者にインタビューを受けたことです。日本ではそういった経験がなかったので単純に嬉しかったし、驚きました。英語でインタビューを受けて、綺麗に写真を撮ってもらって、凄く貴重な経験をしたと思います。少しでもコーカレッジの宣伝になればと思って大学のキャップを被って写真を撮ったことを覚えています。水着は…早稲田のものでした(笑)



#自ら設立

①60人ほどのフットボールチームを作り、週に1回の頻度でフットボールをしていました。メンバーは、欧州各国、北米、南米、アジアからの留学生や現地の学生と、国籍や性別を問わず多くの人々が参加してくれました。

②フットボールが盛んなスペインで、大好きなフットボールを通じて様々なバックグラウンドを持つ人々との交流の場を設けたいと思ったから。留学に行く前から、歴史があり、世界各国から人々が集まる環境で1人でも多くの学生たちと話したいと思っていました。スペインで盛ん、かつ世界中でもメジャーなフットボールの開催を呼びかければ、多くの人が興味を持ってくれるのではないかと考え、行動に移すことを決めました。



フットボールを通して積極的に国際交流

Y.T.さん (政治経済学部)
スペイン / マドリード自治大学 / EX-R

- ③人を集めた方法は、まず自分の寮の人に声を掛け、留学生が多く所属するSNSグループで呼び掛けを行いました。そこからは友達が友達を呼び、フットボールをしたい人、スポーツがしたい人が集まってきてくれました。
- ④参加した人が笑顔で運動をして、会話が弾んでいる姿を見た時。また、週に1回とは言わず、明日もやらないかと言われた時はとても嬉しかったです。
- ⑤チームは60人もいるのに、参加者がいなくて開催できない週があつて苦労したことも、でも、呼びかけや与える情報を増やすようにしました。開催日の天気を伝えたり、「〇〇が参加するから一緒に来てね」などと誘うことも心がけました。徐々にメンバー同士の仲が深まっていったことで、最終的には自然と毎週フットボールができる人数を集められるようになりました。



課外活動に参加することは、留学生在生活を充実させるための大きな手段の一つと言えるかもしれないね！





留学ハフ。

異国での留学生活に
留学した先輩たちがどのような

ニング!



はハフニングがつきもの!
問題に直面したか見てみましょう!!

ハフニング① 営業時間... (ニュージーランドEX-R)

ニュージーランドで冬の時期に国内旅行をした時のこと。安い夜行バスを予約したため、目的地につくのがAM3時くらいの予定だった。事前に目的地付近を調べたら近くに24時間営業のマクドナルドがあったので、そこで時間を潰すつもりでいた。しかし実際そのマックに行ってみると、明かりはついていて、営業していない様子。従業員に聞いてみると、「今日はAM9時に開ける」との回答。

ハフニング② カードの上限が... (アメリカCS-L)

クレジットカードの上限金額が小さかったために、寮費の支払いが期限までにできず焦った。



ハフニング③ 盗難... (ドイツEX-R)

現地に来ていた他の日本人留学生8人中3人がパリやベルリンなどの大都会で盗難の被害に遭いました。私もベルリンでリュックサックを開けられました。すぐに気がついたため何も盗られませんでした。



ハフニング④ フライトが... (アメリカCS-L)

留学を終え日本に帰国するときに天候不良で半日以上フライトが遅れ、経由地である第3国で1泊しないといけなくなった。



ハフニング⑤ 騒音... (アメリカCS-L)

自分の部屋の隣がシャワールームだったので、水道の音がひどかった(理由は不明だが、会話もままならない程の騒音だった)。



ハフニング⑥ 虫歯... (韓国EX-R)

虫歯になった。



どう対応したのか

中に入れてくれと交渉したが、取り合ってくれず、**6時間野宿。**



大学の窓口まで行って必死に説明して、解決した。

クレジットカードを盗られた友人は事前知識があったものの、実際に被害にあった際はパニックに陥り、対応が遅れて勝手に多額の現金を引き出されてしまったようです。被害にあった場合は冷静に、**速やかにカードを止めて警察に連絡するなどの対応をとってください。**

予防策は?

まず夜遅くに目的地につくバスの予約をしないこと。そしてお店の営業時間をあまりあてにしないこと。

クレジットカードを2つ持っておくべきだった。



盗難する側の手口をあらかじめ知っておけば防ぐことができるかと思えます。都会では特に気をつけましょう。

留学アドバイザーからのコメント

営業時間のルーズさにびっくり!(笑)日本じゃありえないことですね。ニュージーランドに留学しようと考えている方は、気をつけてくださいね!

クレジットは1枚よりも2枚のほうが、盗難された時の場合も考えると安心だと思います。クレジットカード1枚で留学をする場合は、保証人の方と相談の上、事前に上限額を高めておきましょう。

やはり海外は日本に比べ盗難事件が多いように感じます。留学生活に慣れてきた時こそ、気を引き締めて、被害にあわないように気を付けましょう!

どう対応したのか

遅れた航空会社のカウンターで『帰国できなくて本当に困っていること』と『学生であること』を全力でアピールした。それにより、翌日の日本への便の航空券代、空港近くのホテルでの宿泊費、夕食と朝食の食費、ホテルまでの交通費を支払ってもらえた。

フロア責任者に相談、加えてそのシャワールームを使う人々を部屋にご☆招☆待☆してどれだけのうるさいか理解してもらった(深夜にシャワーを浴びないようお願いした)。

現地で治療(保険がきかなく、とても高額だった)。

予防策は?

天候によるものなので事前の対策が難しいが、長時間フライトが遅れた場合は、航空会社のカウンターで別ルートでのフライトに変更してもらって交渉をした方が良いと思います。

なし。静かな部屋であることを祈る。



渡航前にしっかり検診をうけておこう。

留学アドバイザーからのコメント

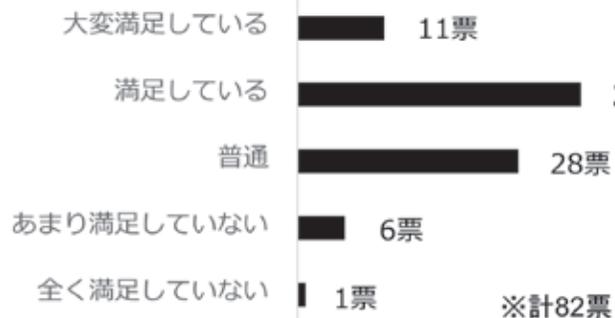
ダメもとても交渉すると良いことがありそうですね!

このような予防できない問題も留学生活にはつきもの。その際には、自分で抱え込まずとにかく周りの人に相談するように心がけましょう!

早稲田の保険は虫歯をカバーしていないので、現地で高額なお金を請求されることも!僕のニュージーランドへ留学していた友達は、日本で治療したほうが安いとあって、一時的に日本に帰ってきていました!(笑)

～留学Before After～

ズバリ、、、あなたは語学力の伸びに



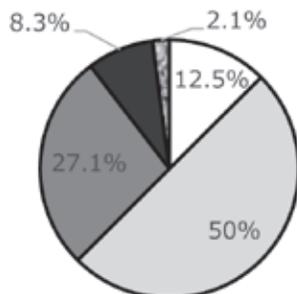
半分以上の人が語学力の伸びに満足しているという結果になりました。

EX-RとCS-Lの語学力の伸びに関する満足度を比較してみよう！

留学前後で自分がどのように変化しましたか？多かったですか？

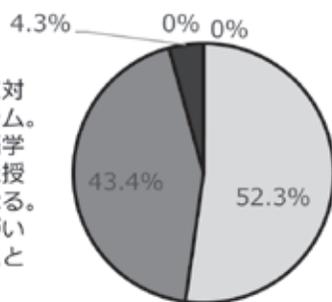
EX-R

いわゆる交換留学プログラムのこと。最初から現地生と同じ授業を履修することができる。



CS-L

留学先が、早大生に対して設けるプログラム。最初の一定期間は語学力向上を目的とした授業を受けることになる。その後テーマに基づいた授業を履修することが可能。



比較すると、EX-Rで留学した人の方が、若干語学面での満足度が高いといえるでしょう。CS-Lの方が満足度が低い理由については、以下のような意見が寄せられました。
 ①CS-Lでは、1つの大学に多くの早大生が参加するため（多い所では40人以上）、日本人同士でつるみやすくなってしまふ。
 ②留学初期は、語学のクラスを中心に履修するが、そこには留学生しかおらず、ネイティブの友達と接する機会がEX-Rに比べて少ない。
 ③語学のクラスが簡単。

太った

- ・10キロ太った。(アメリカEX-R)
- ・自分を含め周りの女子はみんな太っていった。(中国 DD)
- ・こってりした食べ物の代償は大きく、太ってしまった。(韓国EX-R)

服装がラフになった

- ・露出が多くなった。(アメリカEX-R)
- ・Always Tシャツ短パン。(アメリカCS-L)
- ・服装はシンプルになった。(アイルランドCS-L)

社交的になった

- ・昔は人と関わることに面倒くささすら感じていたのに、今では3日に1度は友人たちとホームパーティーをしないと退屈だと感じてしまう。(ドイツEX-R)
- ・老若男女や国籍を問わず、どのような人とでも気軽に話せるようになったと感じる。(アメリカEX-R)

視野が広まった

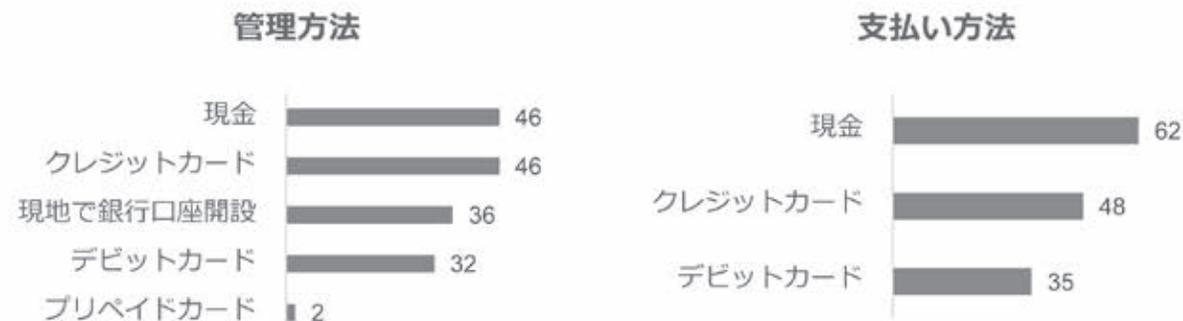
- ・日本の考え方・型(大学を卒業したら企業に就職して定年まで働く等)以外を知ることができた。(ドイツCS-L)

このほかにも、家事全般のスキルが上がった、早寝早起きの習慣がついた、何事も積極的に取り組むようになった、細かいことを気にしなくなった、など多くの意見が寄せられました！！



留学とお金

お金の管理と支払い方法は？ 回答者数71名（複数回答可）



現金やクレジットカードでお金の管理を行う人が多数。多くの人が複数の方法での管理を行っていました。しかし、国や地域によってはクレジットカードよりも現金が使いやすいということもあるので、留学前には必ずそれぞれの国のお金事情について調べましょう！

しくじり先生 俺みたいになるな！ <財布盗難編>

K.S.さん（商学部）
イタリア/ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学/EX-R

夜道を一人で歩いていた時のことです。売春婦に声をかけられ、相手にせず家に帰ると財布がなくなっていました！私は財布を分けていなかったため、クレジットカードを全て紛失。日本にあるクレジットカード会社に連絡をしようとするも、自身の携帯電話が国際電話非対応であったため国際電話カードの購入が必要となりました。しかし、どこで販売しているか見当がつかず、事件発生から2日後に別の街でようやく発見。約13万円が不正利用され、手数料等を引かれた約9万円がようやく7ヶ月後に補償されました。教訓として外国では①財布を分けること、②盗難被害後の行動シミュレーションを行っておくことの2点を徹底しようと思いました。盗難被害を事前に想定していれば、被害後に迅速な行動ができた後悔しています。警戒心を持つのはもちろんのこと、「万が一を想定した行動」をシミュレーションしておくことも非常に大切だと学びました。

奨学金のあれこれ

回答者数71名

奨学金を受け取っていましたか？



どのような奨学金を受け取っていましたか？

日本学生支援機構（JASSO） 56.7%
 学内奨学金 33.1%
 トビタテ！留学JAPAN支援奨学金 3.3%
 その他 6.9%

留学経験者の約半数が奨学金を受給、その多くの方が日本学生支援機構から奨学金を受給していました。奨学金の詳細に関しては、留学センターHP、留学センター発行の『留学の手引き』を参照しましょう！



留学先での 長期休暇...

みんなはどう過ごしているの？
Part1

留学中の長期休暇は、海外で自分のやりたいことにたっぷり時間を注げる良い機会です。たとえば、インターンをしてみたり、旅行に行ってみたり...今回は留学経験者の方々にどんな過ごし方をしていたのか対談形式で話し合ってもらいました。Part1では、同じ留学先で過ごした2人の対談を紹介します。同じ地域でもそれぞれどのように過ごしていたのでしょうか？

Q. 二人は長期休暇中何をしていたの？

J (J.M.さん): 私は休みがあるとすぐに旅行を計画して、とにかくいろいろな地域に出掛けたい！正確に数えられないくらいの地域を旅行して、特に気に入るのがクロアチアかなあ。移動が少し大変だったけどスカイダイビングに挑戦したりもしていい思い出になった！ミラノは電車で2時間位で行けたこともあってリピーターして何度も遊びに行ってたよ。

I (I.S.さん): Jさんはミラノに何度も行ってたよね！私も旅行はヨーロッパ各地に行った！留学前から旅行だけはしたいと考えてたから、貯金してたよ。

J: 行きたいという気持ちと体力さえあれば比較的安価でいろいろな所に旅行できるのはヨーロッパ留学のメリットだよな。お金のやりくりも、普段の生活は節約のために自炊したりして旅費を賄ってたかな。冬の長期休暇で一緒にイタリア南部に旅行したこともあったよね！

I: そうそう！すごく寒かった記憶がある！イタリア国内なのに場所によって街の雰囲気も違うし面白かったよね！

Q. 二人は誰かと一緒に旅行することが多かったの？

J: 行きたい地域や時期が同じ人を探して一緒に旅行することが多かったかな！人それぞれここは絶対行きたい！っていうのがあって、それを上手くマッチングさせて計画を立ててたよ！

I: 私も同じように旅行を決めてたよ！私はもともと美術に興味があったから、一人旅で思う存分美術館巡りをすることも多かったかな。

J: 一人旅いいね！留学中の貴重な時間を思う存分自分の好きなことに使えるよね。もっと積極的に一人でいろいろ動き回れば良かったって思う！在留カードや学生ビザがあれば無料で入れる美術館がEU内にたくさんあって、もっと早く知ってればよかったなあ。

I: ヴェネツィア自体も地域全体が世界遺産に指定されていて、歩くだけで趣があるし、住んでいるだけで特別な気持ちになれたよね！だから自分の留学先をとことん歩き回るのは、いろいろな気づきがあったいいよね！（ページ右上へ続く）

J: 次ここに来る時は住人じゃなくて、観光客なんだなと思うと少し寂しかったのを覚えるよ。



Q. 世界的に有名な観光地に住めるのは、留学ならではの貴重な体験だね！

J: そうそう。私の場合は留学中の友人とよく連絡を取って、「旅行に来る時は連絡してね」と声をかけてヴェネツィアの観光案内をしたりした！せっかく訪れるなら思う存分楽しんで帰ってほしくて、今数えると20人くらいは会いに来てくれたよ。

I:すごい人数だね！でも確かに、今まで仲の良い友達じゃなくても周辺国に留学してる仲間ってだけで関係を深められたし、逆に私がその子たちの留学先に遊びに行くと現地を案内してもらったりして、1回の旅行を充実したものにできた気がする！



Q. 留学中の仲間って大事なんだね！2人とも旅行を沢山しているようだけど、トラブルはなかったの？

I: 私は、旅行先で友達留学先に遊びに行ったんだけど、帰り道でその日の最終バスに乗り遅れてしまった経験がある。そのバスターミナルがあまり治安の良くない場所で、ここで夜を過ごすのかと思って悲しくなったけど、いろいろな人に他の帰り方はないかと聞いて回ったら、親切な人が車に乗せて宿まで送り届けてくれて...どんな場所でも困ったら周りを頼ることが大事だし、親切な人もいるもんだなと学んだよ。

Q. Iさんは旅行以外に長期休暇中インターンシップにも挑戦したんだよね？

I: ヴェネツィアにあるベギー・グッゲンハイム・コレクションという近現代美術館でインターンシップをしたよ。5月下旬に大学の授業が全て終わってから2ヶ月間、チケット販売とかツアーガイドといった美術館運営に携わってた！



J: インターンシップでの使用言語はイタリア語だね？

I: うん！1年生の頃からイタリア語を第二外国語で勉強していたんだけど、留学中の講義はほとんど英語だったから、イタリア語は生活の中で必要最低限使う程度だったの。だけど、心のどこかで留学中にイタリア語を上達させたいって気持ちがあって...インターンシップに参加すればイタリア語を使う機会が増えると思ったことも挑戦した理由の1つかな！

J: そうだったんだね。実際インターンシップを終えて、イタリア語は上達した？

I: そうだね、読み書きというよりも会話のレベルが上がったと思うよ。挑戦して良かったと思う！留学生だと参加するための手続きとかが面倒だろうってイメージだったけど、私の留学先の場合はやってみたら意外と簡単で、先入観で決め付けたりせずには挑戦してみるものだなって思った。

Q. 貴重なお話をどうもありがとう！最後に、今後留学をする人に向けて長期休暇中の過ごし方について何かアドバイスはある？

I: 私はやっぱり、日本ではできないことを自分から見つけて行動してほしいかな！

J: そうだね、積極性が必要だよな。やりたいと思ったら何でもとにかく飛び込んでほしい！いろいろ考える前にまず飛び込め！って思う。

I: 『今』を大事にしてほしいよね。今やっていることが結果として将来につながるから大丈夫って、留学を終えた今すごく実感してる。

J: 留学生同士のつながりをフル活用して、楽しんだり助け合ったりしながら様々なことにどんどんチャレンジしてほしいね！

Members

① I.S.さん (文化構想学部)

イタリア / ヴェニス国際大学 / EX-R
留学先での授業が全過程修了したのち、ヴェネツィアの近現代美術館で2ヶ月間インターンシップに挑戦。

② J.M.さん (国際教養学部)

イタリア / ヴェニス国際大学 / EX-R
『遊びや旅行の誘いは断らない』をモットーに、長期休暇中合わせてヨーロッパ20都市以上を旅する。



Q. 留学前からインターンシップに参加しようと思っていたの？

I: そんなことはないよ！最初から挑戦しようと思っていたわけではなかった。面白半分に参加したインターンシップの説明会で、たまたま興味がある美術館でのプログラムを見つけて応募したら、縁あって参加できることになったの。

J: 私たちの留学先の大学は、いろいろなインターンシップのプログラムを斡旋していて、誰でも挑戦できる環境だったよね。他にも、映画祭のインターンシップとか環境問題に触れるものもあったりして面白いなと思った！（ページ右上へ続く）



留学先での長期休暇・・・

みんなはどう過ごしているの？ Part2

ドイツとアメリカにそれぞれ留学し、旅行を楽しんだ2人の対談です。その地域ならではの経験や、旅行の仕方について聞いてみましょう！



Members



①S.T.さん(社会科学部)
ドイツ/ボン大学/CS-L
フィンランドやエストニアといった珍しい国にも旅行し、多くの博物館や歴史資料館を巡った。

②H.T.さん(国際教養学部)
アメリカ/ルイス&クラークカレッジ/EX-R
アメリカ留学中にホームステイや、ヨーロッパ旅行を経験。



Q. H.T.さんは、長期休暇はどう過ごしていたの？

H(H.T.さん): 12月の中旬から1月中旬くらいまで、1ヶ月ほどの長い休みがあったので、最初の2週間ほどは、ルームメイトの実家でホームステイをして、後半の2週間は、ヨーロッパで旅行をしていたよ。

S(S.T.さん): そうなんだ！なんでヨーロッパを旅行することにしたの？

H: 音楽サークルの同期にも留学をする人が多かったので、留学先で一度集まりたいなって留学前に言ってたんだよね。そこで、ヨーロッパに留学している友達に会うついでに旅行をしようという計画を立てて行ったよ。

S: どの国に行ったの？

H: フランス、イタリア、ドイツ、スペインとかかな。

S: かなり多くの国を回ったんだね(笑)

H: フランス、イタリア、ドイツには留学していた友達がいんだけど、スペインのパレンシアには、ヨーロッパにいる時に行くことを決めたよ。

S: 弾丸旅行だったんだ(笑)

H: うん。スペインには、行って見たかったからね！

S: なんでスペインに行こうと思ったの？

(ページ右上に続く)

H: 大学で第二外国語として、スペイン語を学んでいたの

で、スペインには興味があって、実際に行って、料理を食べたり、街並みを見てみたりしたかったからかな。アロス・デ・ネグロというイカ墨のパエリアはスペインで食べた料理の中でおいしかった料理の一つだった！

Q. S.T.さんは、長期休暇はどう過ごしていたの？

S: 旅行がメインだったかな。春休みが長かったので、オーストリア、フィンランド、ロンドンなどに行ったよ。

H: ほお！その旅行の中で何が思い出に残ってる？

S: ロンドンには友達といったんだけど、いろいろ観光地を回った後に行ったジャズバーが思い出に残ってるよ。

H: どんな感じのバーだったの？

S: 飲み物を注文すればジャズが聞けるお店で、飲み物を飲みながら、おしゃれなジャズを聞くことができ、とても良い雰囲気だったよ。

H: いいね！僕も音楽に興味があるので一度行ってみたい。他に思い出に残っていることはある？

S: フィンランドには一人旅で行ったんだけど、僕は歴史や政治に興味があるから、いろいろな博物館や歴史資料館を巡ることができたのは良かったと思う。あと、フィンランドの伝統料理であるトナカイの首の肉や、ボルシチを食べたこともいい思い出だね(笑)(次のページへ続く)

H: トナカイの首の肉って日本では絶対に食べられない料理だね。味はどうだった？

S: 思っていたより美味しかったよ(笑) 現地の料理を食べることは、現地の文化を知る良いきっかけになると思う！

Q. 様々な国や地域を旅する中で、自身の留学している地域との違いを感じることはあった？

H: ヨーロッパとアメリカでの教会の規模や形式の違いを感じたかな。ヨーロッパの教会は、歴史があって、外観や内装もアメリカの教会よりも、かなり豪華な感じだった。あと、ヨーロッパは教会の数が、とても多かったよね。

S: 確かに！僕はドイツが留学先で、通学中や旅行中でも常に目にしていて、留学中はその景色に慣れちゃっていた(笑)でも、逆に言えば、教会は、僕にとってとても身近な存在だったかな。僕も留学中は、よく教会に行ってたね。教会の中は、とてもリラックスできる感じがして、その雰囲気が好きだったよ。ヨーロッパとアメリカの教会で雰囲気が違うのは、歴史の深さが違うからなのかな？

H: 歴史の深さには関係があるかもしれないね。確かに、アメリカの教会は、ヨーロッパの教会に比べて質素なものが多かったような気がする。でも、歴史がヨーロッパと比べて浅い分、割と厳格ではないフランクな活動が自由に行えている感じがしたかな。僕も、アメリカ人のルームメイトの実家にホームステイしていた時に、地元の教会を訪れたんだけど、訪れた時期が丁度クリスマスだったから、聖歌隊が教会の中でゴスペルなどを歌ってたのね。おもしろかったのは、聖歌隊が、聖歌を普通に歌うだけではなくて、ロック調にしたりと、様々なアレンジしたりして、自由に歌っていたことかな(笑)最初は驚いたけど、みんながすごく盛り上がっている感じがよかったなあ。

S: へえ！ロック調の聖歌は聞いたことがないな(笑) 僕もヨーロッパの教会で、聖歌隊が聖歌を歌っているのを聞く機会はたくさんあったけど、厳粛な空気の中で、歌っていることがほとんどだったよね。



H: それはヨーロッパを旅行している中で僕も感じたよ。ヨーロッパ旅行に行くまでは、アメリカの教会のそんな雰囲気がスタンダードなものだと思っていたから、地域によって教会の雰囲気が異なるということを経験の中で直接感じるようになってきたよ。

Q. 長期休暇で様々な地を訪れる中で、学んだことはある？

H: ホームステイや旅行の中で感じたのは、現地を実際に訪れることや生活を生で経験することは、いろいろな文化を知ることができる貴重な体験であるということかな。本やインターネットであらかじめ調べて知っているつもりでも、現地に行くと全く違うものだなと思うことも多々あったね。例えば、現地の人にその土地で有名な場所や料理を聞いてみたら、本屋インターネットにも載っていない場所を教えてもらったりしたなあ。この経験は、日本にいただけではなかなか経験できないものであり、将来にわたって役立つものだと思う。

S: 確かに。短期間で様々な地域を旅することができる機会はなかなかないし、この留学中の長期休暇は良い機会になったよ。

H: うん、今後就職したら、あまり時間もとれなくなると思うし、いい機会だったね。Sさんはどんなことを学んだの？

S: 僕が学んだのは、行動する勇気かな。様々な地域を旅する中で、ホテルの場所が分からなかったり、電車やバスなどの交通機関の使い方がわからなかったり、その他にもいろいろなトラブルに遭遇したんだけど、そういった困った時にこそ、やはり自分だけで解決しようとせず、とりあえず聞いてみるということがいいと感じたよ。実際聞いてみると、みんな親切な人ばかりで言葉が通じないながらも一生懸命教えてくれたりして、人のやさしさに触れることができたのがよかったと思う。

短期留学

C.K.さん (商学部)

イギリス/オックスフォード大学/2015夏季短期プログラム
オーストラリア/モナシュ大学/2016春季短期プログラム

【参加した理由とプログラムの選び方】

海外の文化や名門大学に興味があり、視野を広げるために留学を考えました。しかし、中国人留学生でもあった私は早稲田において日本語を勉強する時間をしっかり確保したかったため、長期間海外に行く時間は確保できませんでした。そのため、長期休みを利用して短い期間で行ける短期プログラムにしました。

プログラムを選ぶ際には、世界中から優秀な学生が多く集まる名門大学に行きたいと考えました。その他、治安や気候の要素も考慮しました。初めはイギリスのオックスフォード大学に行き、そこでの経験が非常に有意義であったため、もう一度短期留学に行きたいという思いが強まりました。その後、オーストラリアにあるモナシュ大学へ留学に行きましたが、気候が温暖で、人は優しく、治安もよかったです。実は、今度4ヶ月間私費でカリフォルニア大学ロサンゼルス校に再び留学をします。過去の2回の短期留学が次の留学の決断に影響を及ぼしました。

【現地での生活】

<オックスフォード大学>

授業スタイル、学生の意識、接客の質において日本と違いがみられ、刺激的な日々でした。イギリスでは授業が午前から午後まで1日中あり、平日はあまり遊ぶ時間はとれませんでした。授業形式は日本と異なり、ディスカッションを中心に進められたため、リスニングスキルやスピーキングスキルの向上につながったと思います。

夏休み期間だったので、現地大学の友人を作るのは難しかったです。ただ、寮に住んでいたため、帰省せずに寮に残っていた学生と話すことはできました。イギリスの学生は日本の学生よりも、将来を見据えて行動している人が多く驚きましたね。学部1年生でも、将来のキャリアを考え、そのために今何をすべきかを考えていました。週末は友達とロンドンやケンブリッジに行きました。ここでは日本との文化の違いに触れることができました。イギリスのサービスも親切ですが、日本ほどではなく、駅員さんも何か困ったことがあっても自分で調べてという感じで適当でした。

<モナシュ大学>

オックスフォードの授業はディスカッションがメインでしたが、モナシュはリーディング→ディスカッションというように、インプットとアウトプットを繰り返す機会があり、より勉強になりました。クラスの学生の国籍も様々であり、異なる価値観を持つ人々との議論は刺激的でした。

授業は午前または午後のみなので、自由に使える時間も多かったです。滞在中にメルボルンもシドニーも回る事ができました。街は賑やかで治安もよく、比較的夜遅くまで外出する事ができました。

ホストファミリーは70代の老夫婦だったのですが、話が面白く、こちらの英語力に合わせてゆっくり話してくれました。彼らと毎日会話をしていたので、英語力も伸びました。作ってくれる料理もとても美味しかったです。

留学前後で自分の性格は少し変わったなと感じます。以前は空気を読むことを大切にしていたのですが、留学後は自分の気持ちも大切にするようになりました。色々な価値観に触れ、自分の価値観もそれに合わせて変化する。短期であれ長期であれ、そこは留学の大きな魅力だと思います。



@ Baker street station



Hall at Hertford Collage



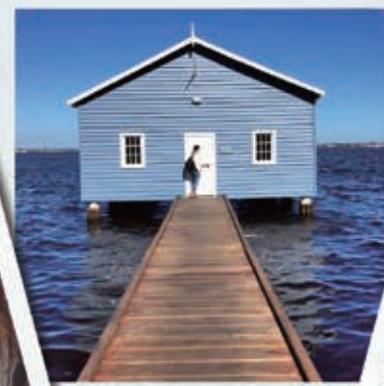
Sunset at Brighton Beach, Melbourne



quokka



Graduation day with my friends



Boat shed



Sunday market with host family

Y.Tさん (文学部) /オーストラリア/西オーストラリア大学/2016夏季短期プログラム



【参加した理由とプログラムの選び方】

私はそれまで海外渡航経験がなかったのですが、塾のアルバイトの関係で英語の勉強を続けていました。そこで、日本語が一切使えない、自分の英語を試せる環境に身を置いてみたいという思いが芽生え留学を決めました。サークル活動・学業・アルバイトとの両立を図りたかったため、長期休暇を利用していける短期プログラムを選びました。

プログラムを選ぶ際には、**研修期間・治安・文化の違いを重視**しました。8月にはサークルのイベントが多く忙しかったので、9月に行くことができるプログラムから探しました。また、ヨーロッパだとテロなど治安面に不安があったため、そこは選択肢から外しました。文化に関しては、オーストラリアは季節も逆で多国籍の人から構成されるため、日本と違う様々な文化を学べるのではないかと考えました。

【現地での生活】

現地の大学に通っていたのですが、クラスは日本で受けたwebテストを元に振り分けられ、私は中級のクラスでした。クラスメイトは20人程度。サウジアラビ人・韓国人・中国人・タイ人など様々でした。時間は8:45から13:00まで、1コマ1時間の授業が4コマあり、文法とプレゼンを2コマずつというような構成でした。授業終了後は友達と街中を探索しました。クラブ活動もあり、そこでは色々な国籍の人と話すことができました。

察してくる日本人と違い、**自分で権利を主張していかないといけないことが多いと感じました**。英語力にも不安があり、主張をうまくできず最初はもどかしさを感じました。授業では、考えている間に話がどんどん進んでしまい、ディスカッションに参加するのに苦労しました。クラブ活動は週に1度あり、私は合唱クラブに入りました。共に同じ歌を練習するということもあり、クラブだと他の国籍の人と話しやすく、歌うことでストレスの発散にもなりました。

また、現地ではホームステイをしており、ホストファミリーには滞在中お世話になりました。留学生の受け入れは私で100人目だったらしく、ホストをするのに慣れており快適に過ごすことができました。ホストファミリーが小型飛行機を持っており、それでロットネスト島というクオッカが生息することで有名な場所に連れて行ってもらったのは良い思い出です。

その他、自分で地図を元に街中を1日中探索したこともあります。バスの乗り継ぎが難しく、停留所名も車内に表示されないのが不安もありました。そこで運転手さんに、目的地を伝え、どのバス停で降車するべきか尋ねたところ、バス停ではない目的地丁度の場所で降ろしてくれたんです！人の良さに感動しました。

こういったすべての経験を通して、**自分の意見を発信する力、1人でも行きたいところに行く力がついたと思います**。語学面でも、最初に比べて話を汲み取れるようになり、日本にいても、外国人と積極的にコミュニケーションを図ろうと考えるようになりました。短期間で多くを吸収でき有意義であったため、短期留学に行こうか迷っている人にはおすすめします。

世界のお祭り体験記

お祭りは参加することでその国の文化を体感することができる特別なイベント。留学経験者が留学先、旅行先で経験したお祭りの数々を紹介し、ガイドブックには載っていないようなお祭りもあるかも…？



バレンシア火祭り
(スペイン、バレンシア)

毎年3月に開催され、2016年には世界遺産にも登録された。バレンシアが春を迎えるためのお祭り。風刺的なモチーフの巨大なオブジェがバレンシアの街中や広場に700個以上配置され、最終日に全て燃やされる。

そして、スペインのお祭りと言えばトマト祭りも有名ですが、この火祭りも同様に、少し恐怖を感じるくらいに五感を使って楽しむことが好きなのがスペイン人なのだろうなと感じた体験でした。

他にドイツ人、フランス人の友人と一緒にいたのですが、みんなあまりにショッキングな光景に恐怖を覚えてしまい、一番大きなオブジェを燃やすところは見に行かず、外で爆竹の音が響くカフェでコーヒーを飲みながら休んでいたのも、今では良い思い出です(笑)

巨大なオブジェが橋に囲われることもなく至近距離で一気に燃やされ、破片が目の前に落ちて落ちてくるので、小さい子はみんな泣いて逃げていましたし、自分もこれまでに体感したことのない身の危険を覚えました(笑) 加えて、あらゆる場所で子供達が爆竹を投げているので、まるでテロが起きているかのようなものすごい音が常にして。一緒にお祭りを訪れたトルコ人の友人は、トルコでは近年テロが多いので本当に笑い事じゃないと言っていました。もちろん街中煙たくなり、煙の匂いもすごいものでした。

また、オブジェの多くはアパートなどが並ぶ街中に配置されていたので、建物に直接すずや火の粉が飛んでいるんです。日本では有り得ない光景ですよ。でもそれが伝統のお祭りであるから、と許されるのは、スペイン人のおおらかな国民性をよく表しているなと思いました。



O.Sさん(国際教養学部)
スペイン/マドリッド大学/
EX-R

ジュゼッパにあるレンデトーレ教会のお祭り。毎年、7月の第3土曜日に行われ、普段は船でしか行くことのできないこの島に年に一度だけヴェネツィアの河岸から橋が架かる。夜にはヴェネツィアの海に水上花火があがるため、陸路や海路でたくさんの人が訪れ、ヴェネツィアの人が1年で最も楽しみにするお祭りと言われている。

「ヴェネツィア旅行中、町の人に「今日は花火だよ」とたくさん声をかけられお祭りの存在を知りました。花火は23時半からという遅い時間でしたが、たくさんの方が集まり花火の前から盛り上がっていました。ヴェネツィアの海を望みながらの花火は圧巻の光景で、旅行先で一番の思い出のひとつになりました！」(M.K.さん)



レンデトーレ祭
(イタリア、ヴェネツィア)

4月にワシントンDCで2週間にわたって開かれるお祭り。日本から贈られたポトマック川周辺の3000本の桜の開花時期に合わせて開かれる。コンテストやパレード、日本文化を紹介するお祭りであるさくら祭りが開催される。この時期は、全米から多くの観光客が桜を見に訪れる。

「さくら祭りで習字を教えるボランティアをしました！日本語で名前を書きたいという人が多かったのですが、一番面白かったのは「川端康成が好きだから川端康成を書きたい」と書いていた人です(笑)」(K.D.さん)



ワシントン桜祭り
(アメリカ、ワシントンD.C.)



サンタクロースパレード
(カナダ、トロント)

11月中旬にダウンタウンで行われるお祭り。1905年から毎年開催されている歴史あるパレードであり、大きなオブジェのプロートやマーチングバンド、サンタやトナカイの格好をした人々など2000人近くが行進する。トロントのクリスマスシーズンの始まりを告げる北米最大級のサンタクロースパレード。

「警官たちもその日は赤い鼻をつけてノリノリで参加していました(笑)」(S.N.さん)

アイルランドにキリスト教を布教したセント・パトリックを記念したお祭り。彼の命日の3月17日はアイルランドの祝日であり、首都ダブリンではパレードなども開催され、特に盛大にお祝いされる。

「街中がアイルランドカラーの緑色であふれて、パレードなどで大騒ぎになっていました。みんなが仮装していてとても楽しかったです！」(M.Y.さん)



セント・パトリック・デー
(アイルランド、ダブリン)



セビージャ春祭り
(スペイン、セビージャ)

4月に開催されるお祭り。祭り会場となる地区には小屋が1000個以上並び、それぞれの小屋は人々が深夜まで祭りを楽しむ場所となる。その小屋の中で女性たちはセビジャーナスという踊りをずっと踊っているらしい。街がフラメンコの衣装等伝統的な衣装をまとった人であふれるので、スペインらしさを味わうことができる。

「フラメンコの衣装に身を包む美女にあふれる街を想像していたけれど、実際にはほとんどがおばあさんか子供だったので少し残念でした(笑)」(S.O.さん)

8月にコロンビア第2の都市、メジデンで行われる花祭り。コロンビアの無形文化遺産に登録されている。最終日には100キロを超えるものもあるというシジェタという椅子型のかごに、色とりどりの花をのせて担ぎパレードをする。その他にもお祭り期間中には街中に花のモニュメントがあふれ、盛り上がりみせる。

「近くのショッピングモールの床一面が花で埋め尽くされた飾りを見ました！街全体が花に包まれたようになる素敵なお祭りです。」(K.C.さん)



フェリア・デ・ラス・フローレス
(コロンビア、メジデン)

Gourmet Report 2017

世界の美食&珍味めぐり



海外の食文化に触れることは留学の醍醐味の一つ
分かる、各国のおいしい食べもの&ちょっとユニ

ですよね。そこで現地で生活した人だからこそ
ークな食べものを集めてみました。



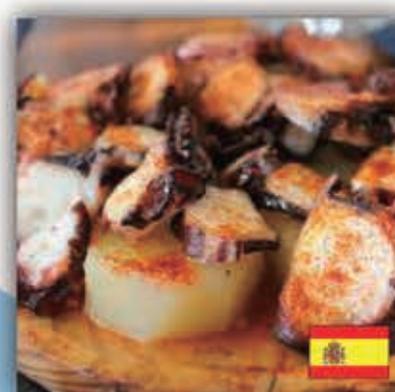
In-N-Out バーガー
アメリカ西海岸を中心に
絶大な人気を誇る。冷凍
ものを使わない本格派。
裏メニューも数々存在す
る。



シカゴピザ
厚みのあるキッシュのよ
うなピザ。B級グルメ。
高カロリーだが、チーズ
好きにはたまらない。



**アキー&
ソルトフィッシュ**
赤い果物と鱈の塩漬けを
玉葱と卵と炒めたジャマ
イカ定番の朝食。



**ポルボ・
ア・フェイラ**
ゆでたタコとじゃがい
もをシンプルに味付け
。赤ワインと相性抜群!



ソムタム
青パパイヤのサラダ。
食感はシャキシャキ。
ナンプラー等を使って
いるためタイ独特の酸
っぱさがある。



クール・ドウ・ブーフ
「牛の心臓」と呼ばれる
トマト。大きく珍しい形
をしている。チーズやサ
ワークリームを挟むとお
いしい。



ボンデギ (韓国)
蚕のサナギをゆでたお
つまみ。見た目と匂い
がかなり強烈だが、美
容と健康には効果的な
ので女子は試してみ
てもいいかも?



ヘタ
やわらかく煮込まれた豚
の鼻。コラーゲンたっ
ぷりで、ビールなどのお
つまみとしてすごく良
い。



さそり
素揚げされ、外はカリ
カリ、中はエビのよう
な食感。非常に香ばし
く、お酒のつまみにと
ても合う。



豆花
豆腐と甘いシロップの
デザート。カロリーも
比較的安く満腹感を得
られるため、ダイエツ
ト中の人にも人気。



**テューリンゲン・
クローズ**
ジャガイモのお団子。も
っちり&しゃきしゃきと
した食感を楽しめる。

これを知って、
持って行く人？持っていない人？



留学経験者が回答した

必要・便利な持ち物ランキング ※カッコ内=回答比率

第1位 パソコン (93.3%) 第2位 常備薬 (80.0%) 第3位 電子辞書 (68.9%)

堂々の1位。レポートやプレゼンの準備には必須。授業中にノート代わりに利用する人も多いです。寮やホームステイ先でも自分のパソコンがあった方がいつでも使えて◎

圧倒的な支持率。海外の薬は強すぎる、成分表記が分かりにくいなどの意見も。いざとなった時の日本製品に対する安心感は計り知れません！

持参して損はありません。膨大なリーディングの課題をこなす際や、授業中にさっと単語の意味を調べる際にとても便利です。試験に持ち込める場合も有り。



コアな意見も多数寄せられました！

- ・100均で買えるような小物 (3票)
ファイルや綿棒、コロコロクリーナーなど
- ・歯ブラシ (3票)
アメリカのものはサイズが大きすぎる
- ・下着類 (2票)
サイズ感が日本と異なる、週一の洗濯だと間に合わない
- ・日本の調味料 (2票)
現地でも買えるが物価が高い
- ・サンダル (2票)
土足で部屋に上がる時に使用
- ・趣味のアイテム (2票)
楽器や自転車など、友達づくりに役立つ
- ・日本に関する知識と和食の作り方 (1票)
日本人留学生は海外について詳しいが日本については疎い
- ・ファブリーズ (1票)
中国にはそのような類のものがない



ベスト4以下はこちら！！

- 第4位 日本食 (62.2%)
- 第5位 文房具 (46.7%)
- 第6位 日本のお土産 (44.4%)
- 第7位 くつ (35.6%)
- 第7位 折り畳み傘 (35.6%)
- 第7位 リュック (35.6%)
- 第10位 洋服 (31.1%)
- 第11位 ホッカイロ (22.2%)



参考になる情報は
手に入りましたか？

飛行機の手荷物検査や重量制限にひっかからないよう、事前に選別することを強くお勧めします。

日本から荷物を送ってもらうことも容易なので、行きのスーツケースが多少軽くても、全く心配ありません！

国や地域によって必需品も異なりますので、積極的に先輩の声に耳を傾けてみましょう！！



早稲田大学学生留学アドバイザーとは？



早稲田大学留学センター所属のボランティア団体で、留学センター提供の中長期プログラムに参加した早大生によって構成されています。今年で設立から12年経ち、「一人でも多くの人に留学の価値を見出してもらう」という信念のもと、留学を支援するイベントの企画、開催やFacebookなどを通しての留学情報の発信、『留学TIMES』の発行などを行っています。そして、早稲田大学学生留学アドバイザーは4つの班に分かれて活動しています。

プロモーション班

「留学に興味はあるけど一歩踏み出せない」「留学ってそもそもなんだろう」そんな学生をターゲットとし、留学をもっと身近に感じてほしい、という思いで様々なイベントの企画・運営を行っています。プロモーション班主催のイベントとしては、オープンキャンパス(8月)や国際交流パーティー(12月)などがあります。



アシスト班

「留学に興味がある学生」「これから留学をする学生」が抱えている不安や疑問を解消し、有意義な留学生活を送れるようにサポートすることを目的として活動しています。留学フェア(4月・10月)や、相談WEEK(10月)などのイベントを企画・運営しています。



キャリア班

主に「留学経験者」を対象にした企画を担当するチームです。これまでに就職活動に関連したイベントを多数開催しています。アドバイザーオリエンテーション(9月)や就活支援イベント(11月・12月)などの企画・運営を行っています。



メディア班

留学経験者へのアンケートやインタビューを基に、冊子やSNSを通して留学の魅力を発信しています。また、学生留学アドバイザーが主催するイベントの広報物作成も担当しているため、活動をモノとして形に残すことができます。主に留学情報誌である『留学TIMES』の作成や、Facebook上で、留学経験者へのインタビューの掲載(Global Humans of Waseda)などの活動を行っています。



学生留学アドバイザーに少しでも興味を持った方、イベントを運営してみたいという方は留学後ぜひ一緒に活動しましょう！ご参加お待ちしております！

～最後に～

2017年度『留学TIMES』はいかがでしたでしょうか？この冊子が、皆様にとって留学の魅力について具体的に知るきっかけとなれば幸いです。本誌は、留学アドバイザーだけではなく、インタビューをうけていただいた方、アンケートに答えていただいた方など、多くの人の協力を得て、作成されました。ここで改めて協力していただいた方々に感謝を申し上げたいと思います。最後まで読んでいただきありがとうございました！来年度の留学TIMESをよりよくするために右側のQRコードからアンケートのご回答をお願いします。

HP



Facebook



アンケート



Email: adviser.event@gmail.com
Facebook: www.facebook.com/wryugakuadviser
HP: http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/adviser
アンケート: https://goo.gl/forms/5WODdJtuGeghO8RO2

学生留学アドバイザー一同